



日本銀行は、これまで国内を襲ったいくつもの災害において、被災後速やかに業務を再開したり、被災した民間金融機関の営業再開をサポートしたり、銀行券の引換えを行ってきました。この際、本支店が臨機応変に連携しながら対応を進めていました。

ここでは、大規模災害が発生した直後に、日本銀行がどのような対応を行ってきたかについて、金融研究所アーカイブの保有資料を中心に紹介します。



1959年9月26日（土）、超大型の台風15号（伊勢湾台風）が紀伊半島に上陸、その後愛知県、三重県を中心に猛威をふるい、各地に**甚大な被害**をもたらしました。日本銀行名古屋支店も被災しましたが、翌日曜日に店内外の清掃整備や金庫の内部を点検するなどして月曜日から滞りなく**業務を継続**しました。また、災害発生直後から管轄地域の**被災状況や社会情勢の把握**に努めるとともに、特に被害の深刻な地域には行員を派遣し、**損傷銀行券の引換事務**を行うなど、臨時的対応にも注力しました。災害発生から約1か月後には、**今次経験を今後の災害対応に生かす**ため、本店総務部から本店各部局および各支店に対して**今後の要望や検討事項のとりまとめ**が依頼され、翌年2月にはそれらの結果が行内で共有されました。

▼ 下線部分（リンク）をクリックすると、各資料のページが開きます。

日本銀行アーカイブが所蔵する名古屋支店の報告書「[伊勢湾台風関係非常措置等について](#)」（検索番号49120『災害関係対策収録（伊勢湾台風関係災害非常措置、今後の災害対策に関する要望と検討事項とりまとめ）昭和34年11月～昭和35年6月』収録）は、上記総務部からの依頼を受けて作成されたものです。災害に際して名古屋支店が行った措置や今後講じるべき対策についてまとめられており、本店に提出された後、本店各部局および各支店に配付されました。



以下、被災発生前後の日本銀行の対応と関連するアーカイブ資料を、**時系列**および「**1. 災害発生**」、「**2. 被災直後の対応**」、「**3. 災害対応からの教訓**」の 카테고리別で紹介いたします。

1959年  
9月26日～

災害発生

## 事前の対策

## 9月26日（台風上陸当日）

- 名古屋支店では行員に早めの帰宅を指示。  
宿直員には、情報収集、水や懐中電灯等の用意、窓の閉鎖の確認等を指示。
- 同日、台風上陸による交通途絶に備え、現金を厚めに準備するよう、名古屋支店から各金融機関に伝達。

## 被害の状況

- 名古屋市内が水没するなど、甚大な被害を受ける（一部行員の家屋も水没）（[検索番号49121](#)）。
- **9月27日**（台風上陸翌日）は日曜であったが、名古屋支店に行員の約半数が出勤。  
店内外の清掃整備を行い、翌営業日の業務に備えた。
- 行員の消息を確認し、9月29日までに全員の無事を確認。
- 名古屋支店および管内の被災状況について、本店総務部長宛てに報告  
（[第1報：9月28日付](#)、[第2報：9月29日付](#)）。

\* 出典）「伊勢湾台風関係災害非常措置等について」（検索番号49120『災害関係対策収録（伊勢湾台風関係災害非常措置、今後の災害対策に関する要望と検討事項とりまとめ）昭和34年11月～昭和35年6月』収録）より作成。

## 被災直後の対応

## 行員の救済

- 被災行員宅に救援隊（名古屋支店行員で構成）を派遣し、救助を行う。  
ボート・和船を借用し救援に利用。
- 救援物資（食料品、衣料品など）を購入または店内から調達し、被災行員に配布。
- 家族寮の空き部屋に被災した行員を緊急収容。

店内の  
急体制

- 課長会議を連日開催し、災害対策の打合せや連絡を行う。
- 損傷した銀行券（損傷券）の引換事務の増加に対応するため、行員および執務場所の配置換えを実施。人員を増員し、窓口を増設。

本店から  
の支援

- 本店人事部次長、総務部長らが見舞・打合せのため、名古屋支店に来店。  
このほか、松本・京都・甲府の各店から連絡・見舞のため行員派遣あり。

\* 出典) 「伊勢湾台風関係災害非常措置等について」（検索番号49120『災害関係対策収録（伊勢湾台風関係災害非常措置、今後の災害対策に関する要望と検討事項とりまとめ）昭和34年11月～昭和35年6月』収録）より作成。

## 被災直後の対応（つづき）

## 金融上の措置

## 9月28日

- 9月28日、名古屋銀行協会は緊急理事会を開催し、被災者への預金払戻および罹災関係手形等の臨時措置の実施を決定（検索番号49121 <[第1報](#)、[第2報](#)>）。
- 名古屋支店内に復興金融基金班を設置。資金需要の実情調査、各金融機関との情報交換、協調融資の仲介などを行う。

## 損傷券関係

- 9月28日、損傷券引換に関する措置決定のため、地元金融機関4行と打合せ。一部地区には行員を派遣し、状況調査を行う。
- 9月29日、取引先の金融機関に対し、損傷券の取次を書面で依頼。（ex. 汚物、泥土の付着したものは水洗い、鑑査の上持ち込み等）
- 9月29日、30日の両日、損傷券引換臨時措置として、発券課員3名を半田市（東海銀行半田支店）へ派遣。以降、10月末まで（その後11月末まで延長）、歳入代理店である東海銀行半田支店に引換事務を委嘱（検索番号49121 <[第1報](#)、[第2報](#)>）。
- 受入損傷券の処理（[検索番号47705](#)、[検索番号18352](#)）  
（熱湯消毒→薬液消毒→水洗→脱水→鑑査→ビニール袋入れ→小把掛け→大束結束→乾燥）

\* 出典）「伊勢湾台風関係災害非常措置等について」（検索番号49120『災害関係対策収録（伊勢湾台風関係災害非常措置、今後の災害対策に関する要望と検討事項とりまとめ）昭和34年11月～昭和35年6月』収録）より作成。

## 災害対応からの教訓

**11月4日**

- 11月4日、本店総務部より、名古屋支店ほか本店各部局および各支店に対し、伊勢湾台風の災害時に行った非常措置、および今後留意・検討すべき事項の取りまとめを依頼（[検索番号49120](#)）。
- 名古屋支店「非常対策応急措置要領」の改訂整備を検討。
- 台風の被害を経験した名古屋支店の行員にアンケート調査を行う（[検索番号18349](#)）。

**1960年2月11日**

- 1960年2月11日、上記依頼に基づく名古屋支店等からの報告書を、本店総務部が取りまとめの上、行内で共有（[検索番号49120](#)）。

\* 出典）「伊勢湾台風関係災害非常措置等について」（[検索番号49120](#)『災害関係対策収録（伊勢湾台風関係災害非常措置、今後の災害対策に関する要望と検討事項とりまとめ）昭和34年11月～昭和35年6月』収録）より作成。

▼ 画像リンクをクリックすると、各資料のページが開きます。



名古屋市南部の様子 1



名古屋市南部の様子 2

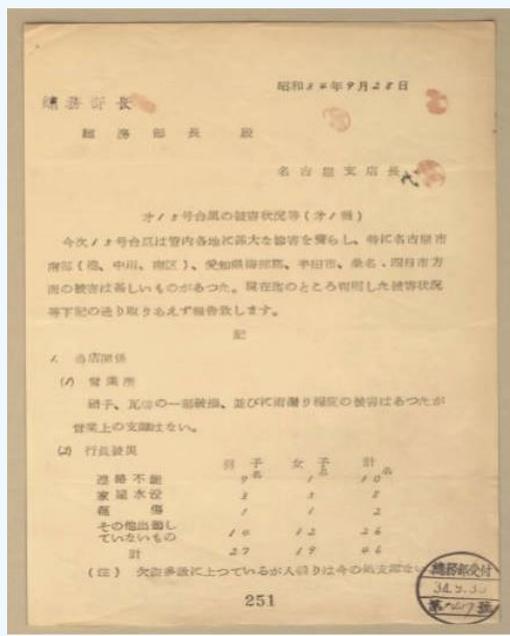


散乱した貨物

行員が撮影した名古屋市内の様子です。  
市内が水没しており、被害の大きさが  
うかがわれます。

▲ 全て検索番号49121 『災害関係書類（伊勢湾台風）昭和34年（1）』 1959年

▼ 画像リンクをクリックすると、各資料のページが開きます。

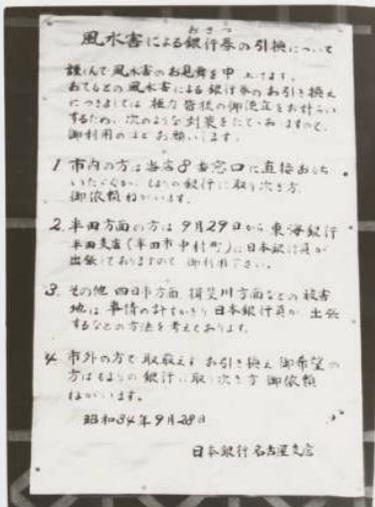


**1959年9月28日・29日  
被害状況と対策（第1報・第2報）**  
 検索番号49121  
 『災害関係書類（伊勢湾台風）昭和34年（1）』  
 1959年

名古屋支店長から本店総務部長へ宛てた被害状況と対策の報告です。  
 台風の直撃を受ける前に市中銀行に銀行券を準備するよう伝えたほか、29日と30日には、臨時措置として名古屋支店の発券課員を半田市（東海銀行半田支店）へ派遣し、預金払戻しや損傷券の引換を行ったことがわかります。台風で汚れてしまったお金の持ち込みは、9月28日～10月31日の約1ヵ月間だけでも紙幣と貨幣合わせて約75万枚と通常時とは比較にならない量となりました。大量の損傷券引換に対応するため、引換事務の執務場所を拡張し、人員の増員・窓口の増設を行いました。また、金融面での応急対策として名古屋銀行協会が「預金証書または通帳を流失した罹災預金者に対しては保証人を徴し便宜支払うことができる」などの臨時措置を決定したことなどが報告されています。その後、報告は第6報（11月16日）まで続き、主要産業の復旧状況や資金需要、物価の動向などの調査結果が提出されました。

## 被災直後の対応

▼ 画像リンクをクリックすると、各資料のページが開きます。



銀行券引換の案内



窓口での受け取り



銀行券を消毒



洗濯絞り機による脱水



日光による乾燥

名古屋支店では、損傷銀行券を窓口にて受け入れ、また被害の大きい地域には行員を派遣するなどして、引換事務を行いました。  
受け入れた銀行券には、消毒、水洗、脱水、乾燥などの処理が行われました。銀行券を乾燥させるため、行員の寮から洗濯絞り機を借用するなど、臨機対応が行われました。



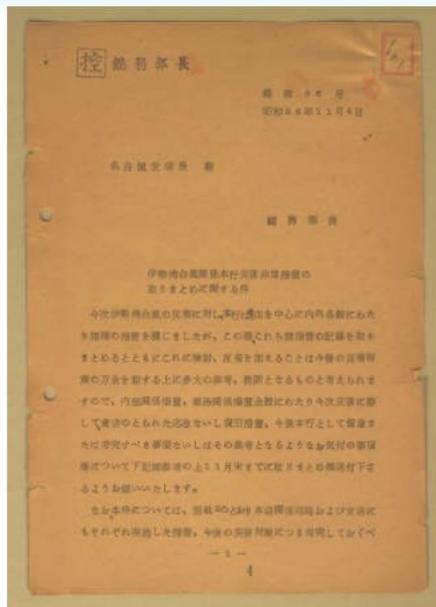
1959年12月「規程にはなかった電気洗濯機」



1959年12月「総裁ミソ樽に嘆声」

日本銀行従業員組合の名古屋支部青年部・女子部が組合員向けに作成した『なごや』1959年12月号の記事では、「伊勢湾台風始末記」と題し、被災当時の名古屋支店の対応などの様子を記しています。「規程にはなかった電気洗濯機」・「総裁ミソ樽に嘆声」では、損傷券の引換事務に際して、絞り機付き洗濯機や味噌樽を使用し、銀行券の消毒から乾燥までの処理を行ったことがうかがえます。

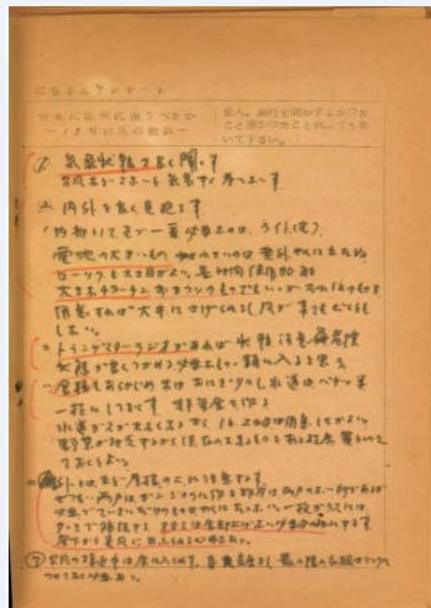
▼ 画像リンクをクリックすると、各資料のページが開きます。



1959年11月4日  
本店総務部から名古屋支店宛依頼  
検索番号49120

『災害関係対策収録（伊勢湾台風関係災害非常措置、今後の災害対策に関する要望と検討事項とりまとめ）昭和34年11月～昭和35年6月』  
1959年

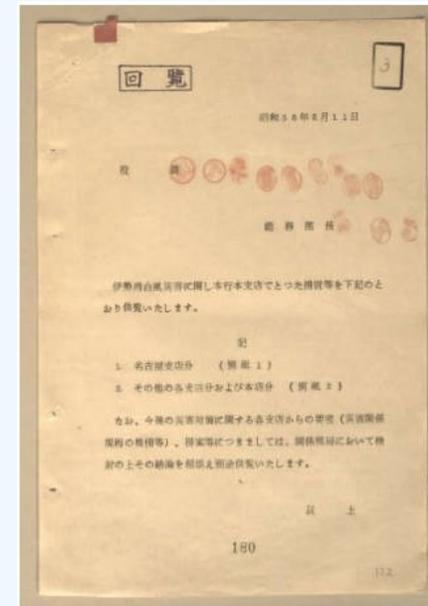
伊勢湾台風時の対応に際し、本店総務部が中心となって、名古屋支店が講じた措置のほか、本店各部局および各支店が名古屋支店に対して講じた措置や独自に講じた措置、今後の課題などをとりまとめ、今後の災害時の参考や教訓とすることとしました。



「にちぎんアンケート」  
(台風如何に備うべきか-15号台風の教訓-)  
検索番号18349

『災害関係報告 伊勢湾台風関係16』  
1959年

伊勢湾台風時の経験を今後に生かすため、名古屋支店の行員へアンケート調査が行われました。ある行員は、光源やラジオ、非常食が必要となること、また、窓や屋根の状態に注意を払うことなど、災害時に気を付けるべき点について記しています。



1960年2月11日「伊勢湾台風関係災害非常措置等について」（名古屋支店作成）  
検索番号49120

『災害関係対策収録（伊勢湾台風関係災害非常措置、今後の災害対策に関する要望と検討事項とりまとめ）昭和34年11月～昭和35年6月』  
1960年

本店総務部の依頼に応じて本店各部局および各支店が取りまとめた報告書のうち、名古屋支店が作成した文書です。伊勢湾台風の被災時に名古屋支店等が採った措置、および今後検討すべき事項についてまとめられています。本報告をもとに、今後の災害対応について行内で検討が進められました。なお、この文書については、1995年1月に発生した阪神・淡路大震災時に本店からの依頼により名古屋支店から本店へFAX送信したとの記録があります。